

局 施 策 評 価 票

平成 21 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **建設局**

基本計画	柱	きずなを結ぶ
	大項目	信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり
	取組みの方針	災害などに強いまちづくり

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	5 8 2 - 2 2 5 2	

21年度計画

-1-(4)-

施策名 **総合的な災害対策の推進**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	頻発する局地的豪雨などによる浸水被害対策として河川の改修や公共下水道の整備などを進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	災害などに強いまちづくり

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値			平成21年度	目標値	
		年度	平成21年度		計画	81 %	年度
	河川整備率			計画	81 %	年度	平成25年度
	ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害を抑制するため、河川の整備率を上げる必要があります。年1%ずつの増加を図り、平成25年度に85%と設定します。	現状値	81%	実績	81 %	目標値	85%
				達成度	100.0 %		
	雨水整備率			計画	69.2 %	年度	平成26年度
	ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害を抑制するため、雨水の整備率を上げる必要があります。年1%ずつの増加を図り、平成26年度に71%と設定します。	現状値	69.2%	実績	69.2 %	目標値	71%
				達成度	100.0 %		
			計画		年度		
			実績		目標値		
			達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	5,230,826 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	506,867 千円	214,950 千円

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	本年も浸水による被害が発生しているところですが、河川整備や雨水整備が根本的な浸水解消につながり、これらの治水対策を推進することにより、浸水箇所は減少するため、高い効果を得られていると考えています。
	今後の局施策の方向性	現在進めている治水対策は浸水に対する効果が高く、近年のゲリラ豪雨を考えると早急に進める必要があると考えます。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価	<input type="checkbox"/> 下記のとおり
---	---------------------------------

施策名 総合的な災害対策の推進

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
総合的な治水対策の推進			5,230,826 千円	214,950 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			497,345 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			9,522 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					

局施策全体の COST			21年度	
			事業費	人件費(目安)
			5,230,826 千円	214,950 千円
施策全体の事業費のうち一般財源			506,867 千円	

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A: 事業の見直しを図ることが可能 I: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局	計画課
連絡先	582-2480	

基本計画	柱	きずなを結ぶ
	大項目	信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり
	取組みの方針	災害などに強いまちづくり
	主要施策	総合的な災害対策の推進

関連計画	
事業期間	H19~
経費区分	裁量の経費

-1-(4)-

事業名	総合的な治水対策の推進
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、河川整備や公共下水道の整備を進めるとともに流域全体の貯留・浸透・保水能力の向上など総合的な治水対策の検討を行います。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	総合的な災害対策の推進	成果	河川整備率 雨水整備率

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	河川整備・雨水整備の実施 河川整備率81% 雨水整備率69.2%	河川整備率82% 雨水整備率69.6%	河川整備率83% 雨水整備率70.0%	河川整備率84% 雨水整備率70.3%		河川整備率85% 雨水整備率70.7%	
		現状	河川整備・雨水整備の実施 河川整備率81% 雨水整備率69.2%	河川整備率82% 雨水整備率69.6%	河川整備率83% 雨水整備率70.0%	河川整備率84% 雨水整備率70.3%		河川整備率85% 雨水整備率70.7%	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
	河川整備率				計画	81%	年度	25	
	河川の整備を進めるには、護岸工事等を行い、河川整備率を上げる必要があります。				実績	81%	内容	85%	
	雨水整備率				計画	69.2%	年度	26	
雨水の整備を進めるには、雨水管布設工事等を行い、雨水整備率を上げる必要があります。				実績	69.2%	内容	71%		
達成度				達成度	100.0%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	5,230,826 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
				うち一般財源	497,345 千円	214,950 千円			
単年度計画						計画課...計画策定 設計課...設計・ 工事発注 東西整備事務所... 工事監督			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は、過去の浸水箇所に対する雨水整備や、紫川をはじめ一・二級河川では10河川、その他48河川で護岸の整備や設計を行い、計画整備率を達成することが出来ました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	治水対策を推進することにより、浸水箇所は減少するため、高い効果があります。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	河川整備・雨水整備は浸水被害の根本的な解決策であり、効率的な方法だと考えます。また、整備箇所ごとに最も経済的な方法を検討し整備を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	近年ゲリラ豪雨が頻発しており、早期の浸水解消を行うために早急な整備が必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	下水道事業は地方公共団体の事務とされており、市以外の実施は考えられません
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	本事業は施策に対する有効性が高く、近年のゲリラ豪雨を考えると、早急に行うことが必要だと考えます。今後も目標達成に向け、着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。